

西多摩医師会報

創刊 昭和47年7月

第400号 平成18年4月



目次

	頁		頁
1) 会報第400号発刊に際して	唐澤祥人 … 2	9) 伝言板	広報部 … 15
2) 会報第400号発刊に際して	真鍋 勉 … 3	10) 同好会短信	
3) 編集委員長時代の思い出		ゴルフ部だより	田村啓彦 … 16
	各歴代編集委員長 … 4	11) 各部だより	
4) 創刊号編集後記	藤野是常 … 8	学術部インフォメーション	学術部 … 17
5) 歴代編集委員名簿	広報部 … 9	12) 理事会報告	広報部 … 18
6) 感染症だより	西多摩保健所 … 10	13) 会員通知・医師会の動き	事務局 … 23
7) 専門医に学ぶ	林 良樹 … 11	14) 表紙のことば・あとがき	広報部 … 25
8) 会館建設検討委員会よりの答申		15) お知らせ	事務局 … 26
	会館建設検討委員会 … 14		

会報第400号発刊に際して



東京都医師会長 唐澤祥人

西多摩医師会報、第400号記念号が発刊されるに当たり、東京都医師会を代表いたしまして心よりお祝いを申し上げます。

西多摩医師会は、明治45年3月に、既に設立されておりました同好医会を母体とし西多摩郡医師会が設立され、以後昭和22年11月には、現在の社団法人西多摩医師会と改組し、地域住民の医療と福祉の向上に多大な貢献をされてこられました。戦後の社会、経済の変革による急速な都市化、工業化、人口の急増等により地域社会は大きく変化し、各種地域医療の実践には幾多の困難があったことと存じます。

しかしながら、会員の強い団結により、時代の推移と社会経済の変遷に的確に対応し、所期の目的が達せられましたことは、誠に慶びにたえません。

ここに歴代の会長先生を始め、役員各位、会員の皆様方のご尽力ご努力に対しまして、深く敬意を表します。

さて、わが国の改革の方向は、財政の健全化の名のもとに、社会保障制度までが削減の方向であり、医療制度改革にあたっては公的負担の規模を削減し、さらに受診者に対する一層の負担を強いることが計画されております。このような政策は、国民皆保険制度の基盤が弱体化し、

社会的弱者が医療提供を受けることが困難になり、生活の安全と安心感の低下をきたすこととなります。このような公平性の後退と国政への不信感、国民の意欲を大きく削ぐことが確実な改革は絶対に回避しなければなりません。

このような状況下でも、私ども医療提供者は常に受診者の立場に立ち、健康確保に取り組み、信頼を確立することが大切であります。さらに、現在は安全確保、診療情報の提供など医療の質が問われており、安心を得る医療を目指し、積極的に心癒す医療を推進することによって都民の医療への信頼が必ず築かれると考えます。

西多摩地域は、今後更に地域再開発を重ねながら都市構造、人口構成等が大きく変わって行くものと推察されますが、行財政規模の異なる四市三町一村にわたる等のことから、地域医療の確立には、地域特性を十分に考慮して推進することが求められるものと考えます。

結びになりましたが、西多摩医師会報第400号を節目とし、今日まで築き上げて来られました歴史と伝統、各種事業の実績の上に立って、活力ある医師会活動と、会員の英知を結集し的確な地域医療活動を展開されますことを期待いたしまして、お祝いの言葉といたします。

会報第400号発刊に際して



西多摩医師会 会長 真 鍋 勉
(第8代編集委員長)

西多摩医師会会報400号記念号の発刊に際し、投稿する機会を得ましたことを心から喜びとするものであります。

私自身、故大嶽栄二先生の部長時代から編集に加わり、その後の2年間(平成2年6月、第210号～平成4年5月、233号)は部長として会報発行に携わりました。そして、出来上がった会報を手にするたびに安堵した体験を持つ者として、400号という数字に感慨深いものがあります。振り返りますと、233号に編集責任者として総括してありますが、そこに述べたように、なるべく多くの会員に会報を手にとってもらうことから始めようと、まず表紙を写真部と絵画部にお願いしてカラー印刷を始めました。予算の関係で毎号と言うわけにはいきませんでした。が、会員の力作が会報の表紙を飾ることは編集の楽しみでもありました。掲載記事で特に印象深かったものに、故小泉新策先生の「生涯現役」—回想録(217号～240号)があります。医師の目から見た戦前、戦中、戦後の世相を事細やかに語られ、国立医師会から転載を希望されたほどの内容でした。また、忘れてならないものに、故山田正哉先生の「雑記」(224号～257号)があります。雑記とは言えない内容のもので、まさに「西多

摩医師会史」です。我々会員にとっては貴重な資料であろうと思います。実は、この記事を手田先生に依頼するため玉木先生と山田先生をお訪ねした時のこと、部屋の奥から何やら風呂敷に包んだ物が二人の目の前に差し出された。その風呂敷包みの中は、大学ノートが十数冊、ノートには山田先生の総務部長時代からの理事會記録がぎっしりと書き込まれていました。玉木先生と私は、驚きと同時に役員としての気概の違いを感じ、山田先生への畏敬の念を抱きながら帰途につきました。

あと数年で西多摩医師会も創立100年を数えます。この永い歴史もこのような先輩達が一步一步築き上げてきたものであることを思い返し、そして尊敬に値する先輩に出会い、わずかでも時を共有出来たことを感謝したいと思います。

「会報は医師会の顔」である、と会報編集の顔である道又正達先生が常々おっしゃっておりますが、けだし名言と思います。新たな顔づくりのために「会報」の充実を祈念致します。

編集委員長時代の思い出

各歴代編集委員長



会報400号発刊によせて

第3代編集委員長

川崎 健一郎

400号発刊おめでとうございます。

本会報発刊当初より編集委員のひとりとして編集に携わり、また何代目だったか確かな記憶はありませんが、柄にもなく委員長も勤めたこともある私（一番ダメな委員長）としては、一人感慨深いものがあります。このたび400号発刊を記念して、回顧録を書け、との報せを受け、さて何を書いたらいいのかなと考え、あれもこれも走馬灯の如く当時のことが頭の中を駆け巡りました。その結果、前後の結び付きもなく極めて断片的ですが、思い出すままに書くことにしました。

医師会は学術団体という建前で社団法人として認められていることは100も承知でしたが、当時の編集委員会では、より多くの会員に読んでもらえる会報を!!ということを最優先にしました。その結果、文芸関係や同好会関係の記事が多くなり、学術関係の記事は昨今よりは少なかったように思います。このことに関しては一部に批判の声もありました。

また、当時はお遊び関係の同好会もたくさんありました。囲碁・麻雀・奇術・旅行・ドライブ・絵画などで、私など勉強嫌いで遊び好きの者にとっては、とても楽しい時期でした。そして文芸などのアットランダムな欄や同好会のレポートなどが会報の紙面を結構満たしていたものでした。学術欄は当時は現在ほどの紙面を占めていなかったと思います。（学術部のみなさん、ごめんなさい）

ところで当医師会の設立時には『和をもって貴しとなす』というのが基本理念だということ先輩の先生方から伺っておりましたので、この会報も投稿されたものは必ず掲載する。自由にものが言える開かれた広場!!ということを目指して編集していた次第です。

なお、最後になりましたが、松原先生や堤先生は本会報発刊当初より現在に至るまで、軽妙洒落な文章で紙面を満たして下さっていることに対して心から敬意と謝意を捧げたいと思います。また、写真同好会の写真も目を楽しませてくれているのでこれからも大いに活躍して下さい。さらには表紙の写真も良いし、また、編集委員の「あとがき」も大変興味があります。毎回必ず読んでいます。

なお、本会報は会員相互の親睦・融和を図りコミュニケーションの輪を広げることを主目的としていいのではないのかな、と今でも私は思っております。書きたいことはまだまだたくさんありますが、この辺で一応やめておきます。



創刊頃の思い出

第4代編集委員長

堤 次 雄

西多摩医師会報が創刊されて34年、記念の400号を4月に迎えるとのこと、随分、号を重ねたんですね。驚いています。初期の会報に比べ現在の会報は表紙もカラーで奇麗だし、学術、情報、その他いろいろ、と内容も充実しとても立派です。その昔、創刊に関わった委員の一人として、編集委員の方々のご努力に敬意を表します。

34年前、高水武夫先生が会長に就任され、先生は会員の和、本医師会のPR、情報面などを重視されその一翼を担うべく本会報が生まれたのでした。

あの頃の中堅の先生には飲み手で賑やかな方が割に居られて、ある年の総会の後、数人の先生に二次会、三次会と私は引っぱられ、いや、面白くて付いて行ったようです。その際、会報の話が出て私の隣の席が体格のよい菱山先生でした。先生に「藤野先生が委員長になるからさ、あんたも委員やれよ」と言われ、「柄じゃないす」と頭を下げて断ったのですが、何回だか酌を受け先生に甲高い声で、「やれよ」と肩を打たれ遂に頷いたのでした。後で、「飲み過ぎはいかん」と反省しきりでしたが、「後悔先に立たず」であります。福生・羽村地区からの委員は池田聖先生、内山大先生の両豪傑と私でした。委員長の藤野先生は穏やかな方で和服がよく似合うダンディーな文筆家で、会報も和風の縦書きでいこうと決まりました。だが、1、2年して、「古臭い同人誌のようだ」の声を耳にしました。二代目の大河原先生になって現在の横書きに変わりましたが、確かに学术论文などは横文字が入るので横書きがいい様だな、と思いました。大河原先生は酒はお飲みでなく仕事をてきぱきやられ感心しました。ご趣味は、と聞いたら、クラシック音楽。オペラが好きと答えられた。

三代目が川崎先生で元気の塊り。美食家、歌手、車のドライブ大好き、会報編集の運転も上手な方でしたね。任期を終えられると順番が私に廻ってきたのです。うつ気分になったが委員には、元気闊達な道又先生を始めとして皆さん熱心な方ばかりで助かりました。

委員の方達と時に生ビールを、ぐい、とやりながら仕事をしたのを思い出します。私には失敗があります。総会の頃で原稿が少なくて、3、4月号だったか合併号を作ったのです。後で川崎先輩に、「おい、合併号をやっちゃ駄目だよ」と怒られました。私の安易な方に流れる性分が、ま、合併号でもええか、となり毎月発行の規則を破ったのでした。深く恥入り

ました。今の立派な会報を見て創刊頃に委員を務めた者としてその発展を嬉しく思います。



編集委員長時代の思い出

第10代編集委員長

玉木一弘

西多摩医師会、会報400号記念号に歴代部長の一人として名を連ねることは私にとりまして大変名誉に思います。

私が部長として編集を担当したのは平成6年6月、258号から平成8年5月、281号でした。編集方針はまず読みやすい紙面づくりを基本にレイアウトを変えてみたことでした。また、「理非曲直—私の意見—」と言うコーナーを新設し、自由なテーマで芸芸随筆コーナーとは異なる切り口で会員各位のご意見を載せる企画をしました。好評でした「グルメ探訪」を始めたのも同号からです。また、故山田正哉先生が、西多摩医師会の歴史を「雑記」として連載されていました。情報伝達、相互理解そしてなによりも医師会に集う意義を少しでも感じていただけるような会報づくりを心がけて編集したあの2年間を改めて懐かしく思い出しています。



医師会報編集長時代の思い出

第11代編集委員長

樋口昭夫

私が西多摩医師会報の編集長を務めたのは平成8年6月号から平成10年5月号までです。ただの編集委員として、その前後それぞれ2年間務めたので計6年間ほど会報の編集に関わっていた事になります。編集委員としての最初の2年は、旧秋川市医師会の代表理事として初めて西多摩医師会の理事会に加わりメインは学校医担当理事として、兼務で各種委員会に参加する事になり、医師会報の編集委員会にも加わる次第になったのです。そ

れまで西多摩医師会会長は医師会員全員の選挙で選出だったのが本会理事会での理事の互選に変更されたばかりの時でした。会長選挙復活の意見も根強くあって、西多摩医師会の総会ともなると反執行部の会員から厳しい質問が相次ぎ、顔面紅潮させて答弁された当時副会長の宮川先生の姿が印象的でした。反執行部グループの攻撃の鋒先は医師会報、編集委員会にも向けられました。月に一度そのグループで会合を開いており、その会の案内や議論報告を医師会報に全文掲載する様に強く求められて編集委員会として取扱いに苦慮しました。『医師会報は執行部の御用新聞か』『編集委員会は記事の検閲を行っている』といった質問が総会で集中し、当時の玉木編集長が矢面に立たされながらも冷静沈着且つ誠実に答弁されていました。傍らで見ていて、会報の編集長は、これは大変だなと、つくづく思いましたが玉木先生の後任の編集長に自分が指名された時は本当に驚きました。編集長に就いて最初の総会で早速厳しい質問がきました。『医師会報のコンセプトは何か』『医師会報は会員のためのものと考えているのか。執行部の宣伝機関になっていないか』等々。私としては毎月期日までに記事を集めて体裁の整った会報を出せるかどうか心配するレベルなので、コンセプトも何もあったものではないので、しどろもどろで適当に答えた記憶があります。その頃から反執行部グループのエネルギーも段々下がってきて、総会での激しい議論の応酬は少なくなって来ました。編集委員会も締切りまでに記事や写真を、誰に頼めるか、誰が頼むかといった心配だけになってきました。当時の反執行部グループについては、いつもいつも重箱の隅をつつく様なあら探しをして、全く小姑みみたいな存在だと思っていましたが、今にして思えば医師会に限らず集団の運営には、どんな形でも反対意見を持ったグループの存在は必要不可欠なのだと思います。執行部が独善的にならない様絶えず緊張感を持たせる事が大事なのです。



風の秘蹟

第12代編集委員長

神尾重則

津々浦々で観桜の宴が催されている。梅岩寺では、淡紅色の枝垂桜と真っ白な雪柳が咲き乱れ、そよ吹く春風が桜柳をかすかに匂いたたせる。何にせよ、西多摩医師会報400号は慶賀すべきことである。宴席の羽化登仙にまかせて、小生が編集委員を担当したときに記した「あとがき」を顧みながら、400号に弥栄の杯を上げたい。多忙を極める会員の片手間の編集とて、魔剣あるいは剣鬼のように研ぎ澄まされた切れ味は望むべくもないが、その誌面が保持する香りには独特のありようが感じられる。

*

桜にはかなさを感じるというのは、王朝の文化的遺伝子の刷り込みの名残りでしょうか。しかし、桜吹雪につつまれて、桜の樹の下で酒盛りともなれば、そこには明るいエネルギーと猥雑さが渾然としています。ところで、この国のあるべき見取図はというと、春の霞のようにおぼろげで、政治経済の再生という処方箋は迷走し続けています。やがて桜花のように散り行く気配さえ漂います。水面を流れるあわれ「花筏」の迷走は、何か神がかりの春嵐でも吹かぬ限り続くのでしょうか。

(第340号、平成13年4月)

“Tomorrow never knows”その後、神風に運ばれるようにして誕生したのが小泉政権である。「聖域なき構造改革」という美しいフレーズの羅針盤で進路を定め、快刀乱麻を断つ爆走を続けることとなる。しかし、その海図は必ずしも時代が向かうべきベクトルを示してはいないという疑念が生まれる。例えば、医療に市場原理を導入することによる公正の毀損。「経済原理の優先」と「医の本質

であるエシックス」がアレルギー反応を起こすのは明らかである。時代に対応した医療のパラダイムシフトは重要だが、守るべきベンチマークを忘れてはなるまい。さもなければ、ポセイドンは「花筏」とともに難破する運命を告げるに違いないから。

＊

若草に光る風は、うっそうと茂る夏木立の春葉闇に吸いとられ、低迷する日本社会を反映するかのような鬱陶しい空が続いています。この不透明さを一新する薫風が吹かぬものでしょうか。W杯サッカーも愈々はじまります。失意と絶望の繰り返し。日本サッカーの最初の失敗がドーハならば、最初の成功はジョホールバルでした。フランスのスタジアムの熱狂の輪の中で、日本代表よ「青の風」を吹かせよ。あのジョホールバルの伝説の夜のように、私達に再び新しい夢を見せてくれるように期待したいものです。

(第306号、平成10年6月)

“Germany is Mine”時は流れ、ドイツW杯にむけて過去の記憶が新たな伝説を作り出す。青のメタファは夢。進化した日本代表のブルーのユニフォームが、美しきゴールを操る姿を想像すると心が踊る。世界をあつと驚かせ、歓喜の雄叫びが風に震える日の来ることを祈りたい。アスリート達にとって勝利へのパスワードは、集中 (Concentration) ・冷静 (Control) ・自信 (Confidence) ・意志伝達 (Communication) という4つのC。この4Cは風が運ぶ秘蹟に翻弄される。風はピアノとフォルテを湛えてCの4楽章を吹き抜けるのである。青き戦士たちよ、満帆の風を背にうけて大海原を疾走せよ。

＊

夢か現か、時はさみだれの雨脚のように駆け抜けてゆく。この国の行方もまた、網代木にいさよう波風のように茫として知れない。桜の花が小枝の先から旅立ったのちは、奥多

摩の山ではカタクリが萌えをむかえる。薫るような風に身をまかせ、紅紫色の六弁の花はうつむきかげんに開き、尖った花弁の先は凜としてそり返る。花は時どきのヒトの心のありように応えて、その予兆となる。ねがわくば西多摩医師会報も、風の気配に耳をかたむけながら地域の医療のありようを捉えて、風紋を織りなす発信を続けていただきたいと思うのである。



広報部編集委員長を 経験して

第13代編集委員長

森 本 晉

このたび西多摩医師会会報発行400号記念を迎えたこと、誠におめでとうございます。足掛け34年の中のたったの2年間ではありましたが編集委員長を務めさせていただいたことは大変光栄に思っています。私は平成12年6月より平成14年5月まで編集委員長をさせていただきました。医師会に入会してから医師会の業務に携わったのは学術部委員のみで西多摩医師会のシステムは全くわかっておらず、理事になってすぐ担当したのが広報の仕事でした。せめて編集委員でもやっていたらスムーズにはいっていったのですが、私には重荷でしたがとにかくやるしかありませんでした。そこで前任者の神尾先生にご意見を伺いながら、編集委員の先生方のお知恵を拝借して年間スケジュールを立て、スタートしました。

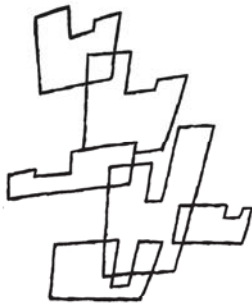
まず、いかに多くの会員の皆様に会報を手にとっていただけるかが課題でした。そこで就任早々から紙面の順番を変えてみました。それまで理事会報告等の公的事項が1ページ目から掲載されていましたが、読みにくいとの意見を耳にしてこれを改め、会員からの投稿文をトップにもってきました。そして興味のもてる特集を組み、かつ各方面の先生方から投稿していただくこととしました。それに

(8)

は常にアンテナを張って多くの情報を収集することが必要でした。毎月投稿して下さった先生、ときどきすてきな紀行文を寄せて下さった先生、こちらからの投稿依頼に快諾して下さった先生のおかげで無事2年間を乗り切れました。

写真部写真展と絵画展の作品をカラーで掲載したことも大きな変革だったと思います。理事会では費用がかかるとの反対意見もありましたが、せっかくの作品を白黒で掲載するのでは味気ないものです。また展示会場に足を運べない会員には会報で見ただけのわけで、カラーにして大変良くなったと自画自賛しています。この写真展に自分が出展することになるとは夢にも思いませんでした。

2年間すべての原稿に目を通してきましたが、才能豊かな先生が実に多いということを改めて感じさせられました。会報を通して多くの先生方と接することができましたことを感謝いたします。



第14代編集委員長

葉山 隆

私は、森本 晉先生に引き継いで編集委員長を担当させていただきました。それまでは余り熱心に会報を読んだことも無く、編集委員の経験もありませんでしたので、本当にゼロからの出発でした。しかし継続は力なりで、先輩の先生方が作られたシステムがしっかりしていたこと、投稿してくれる先生方がキチンといらっしやることなどで、大きな問題もなく発行を続けることが出来ました。しかしその後、元来ずぼらな人間である上に、市の介護の審査委員も担当していたため（最初の頃は介護のランキングを決める予習に相当の時間を取られたのです）、あつという間に締め切りが来ることとなり、原稿の依頼をきちんと私がしていなかったりして、それは苦勞しました。その時は、一回くらい休刊してもいいのだ、と開き直ってやっておりました。休刊に至ることのなかったのは、誠に編集委員の皆様のご協力と依頼無し原稿を投稿してくれた先生方のおかげだと考えています。読みたくなる会報を目指して、会員の皆様を知りたいと思われている事柄、外来の予約制、電子カルテ、電子レセプトなどを取り上げました。やはり時間が足りなく企画倒れの感がありましたが、少しは参考になりましたでしょうか。

創刊号編集後記

藤野是常

何事によらず、或る一つの事実を産み出すと云うことは、仲々大変なことである。しかも、それに生命を与え、栄養を与え、衣を着せて、それを存続させることには大変な努力と忍耐とが必要になるうと思われ。斯所に、西多摩医師会報を創刊するに当たって、日本医師会長、東京都医師会長、並びに多数の先生方の祝辞を頂き感謝と感激が入っていると同時に、これから先、毎月毎月育み、育てていく我々の使命の重大さを沁みじみ感ぜざるを得ない。これは、必ずしも編集委員のみの責任に於てはなく会員諸兄の御援助と御加護とが絶対に必要であることを斯所に改めて認識して頂きたいと思う。

歴代編集委員 名簿

	委員長	委員
昭和47年7月 (第1号)～	藤野 是常	丸茂三千穂・野村有信・箱崎 淳・菱山正治・杉本 一・川崎健一郎 平林信隆・池田 聖・堤 次雄・矢ヶ崎久雄・内山 大
昭和49年7月 (第22号)～	大河原 周	丸茂三千穂・平林信隆・松原貞一・米山秀雄・木野村幸彦
昭和51年9月 (第48号)～	大河原 周	平林信隆・松原貞一・堤 次雄・吉野住雄・鈴木 修・土田守一 波田野洋夫・今川 武
昭和53年5月 (第68号)～	川崎健一郎	土田守一・堤 次雄・植田 稔・松原貞一・桂木 真・足立卓三 米山秀雄・堀田洋夫・道又正達
昭和55年5月6月 合併号(第92号)～	堤 次雄	堀田洋夫・桂木 真・菅井義久・鈴木 修・植田 稔・道又正達 高木 直・川辺隆道
昭和57年5月 (第115号)～	菅井 義久	栗原琢磨・佐藤義弘・斉藤信幸・塩澤三朗・高木 直・堀田洋夫 道又正達・村山正昭
昭和59年5月 (第139号)～	村山 正昭	荒巻武彦・石井好明・栗原琢磨・小林杏一・堀田洋夫・渡辺良友
昭和61年5月 (第161号)～	村山 正昭	石井好明・井村進一・栗原琢磨・小林杏一・道又正達・渡辺良友
昭和63年6月 (第186号)～	大嶽 栄二	石井好明・栗原琢磨・小林杏一・真鍋 勉・道又正達・百瀬眞一郎 横田 博・渡辺良友
平成2年6月 (第210号)～	真鍋 勉	石井好明・小机敏昭・小林杏一・田代 洋・玉木一弘・堀田洋夫 道又正達・百瀬眞一郎・渡辺良友
平成4年6月 (第234号)～	明田川修生	天野了一・石井好明・片平潤一・込田茂夫・瀬戸岡俊一郎・高水松夫 玉木一弘・道又正達・小机敏昭・山川淳二
平成6年6月 (第258号)～	玉木 一弘	石井好明・奥野 仁・片平潤一・小机敏昭・高水松夫・樋口昭夫 道又正達・山川淳二
平成8年6月 (第282号)～	樋口 昭夫	石井好明・片平潤一・百瀬眞一郎・高水松夫・田村啓彦・奥野 仁 小机敏昭
平成10年6月 (第306号)～	神尾 重則	石井好明・片平潤一・清水佐和道・高水松夫・田村啓彦・樋口昭夫 横田卓史
平成12年6月 (第330号)～	森本 晋	石井好明・神尾重則・片平潤一・込田茂夫・清水佐和道・高水松夫 田村啓彦・細谷純一郎
平成14年6月 (第354号)～	葉山 隆	森本 晋・石井好明・池田讓治・坂井成彦・鈴木道彦・込田茂夫 馬場眞澄
平成16年6月 (第378号)～	野本 正嗣	瀬戸岡俊一郎・石井好明・桂川敬太・込田茂夫・坂井成彦・鈴木道彦 馬場眞澄・葉山 隆・細谷純一郎

感染症だより

<全数報告>

第8週(2.20～26)から第11週(3.13～19)のあいだに全数報告対象の感染症の届出は、2類感染症の細菌性赤痢が3月15日に1件ありました。27歳女性でインドへ旅行し感染した模様でゾンネ型でした。また、5類感染症の急性脳炎が2月24日と28日に1件ずつ計2件ありました。前者は0歳児女児で病原体は不明、後者は1歳女児で鼻汁からインフルエンザAH1型が検出されました。

2006年になってからの西多摩保健所への報告累計は、2類感染症の細菌性赤痢が1件で5類感染症の急性脳炎が2件です。

<定点からの報告>

	8週	9週	10週	11週	2006年 累計
	2.20～26	2.27～3.5	3.6～12	3.13～19	
RSウイルス感染症	0	1	0	0	2
インフルエンザ	87	31	14	15	1,559
咽頭結膜熱	2	1	8	3	23
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	9	3	9	7	80
感染性胃腸炎	28	15	43	35	333
水痘	7	6	7	7	91
手足口病	0	2	0	0	4
伝染性紅斑	0	1	0	0	2
突発性発しん	2	1	1	3	20
百日咳	0	0	0	0	0
風しん	0	0	0	0	0
ヘルパンギーナ	0	0	0	0	0
麻しん(成人以外)	0	1	0	0	1
流行性耳下腺炎	3	6	7	11	74
不明発疹症	0	0	0	0	0
MCLS	0	0	0	0	0
合計	138	68	89	81	2,189

※第9週の麻しんは3歳男児で、あきる野市の定点から。予防接種歴は不明。

<コメント>

- 西多摩保健所管内のインフルエンザの流行は、第9週以降終息に向かった。
- 今シーズンのインフルエンザによる学級閉鎖・学年閉鎖は、奥多摩町以外の管内7市町村で、小学校は35校で学級閉鎖83クラス・学年閉鎖5学年、中学校は7校で学級閉鎖4クラス・学年閉鎖5学年が把握された(3月23日時点)。

<平成17年東京都のHIV感染者・AIDS患者動向－依然増加傾向続く－>

東京都は3月23日、平成17年のHIV感染者・AIDS患者動向を発表しました。東京都への報告数は、HIV感染者322件、AIDS患者95件で、前年と比べAIDS患者は8件減りましたが、HIV感染者は14件増加し合計では417件と昨年を6件上回り過去最高となりました。全国の報告数は1,124件(1月末速報値)となっており東京都は37.0%を占めています。

内訳を見ると、日本国籍男性の感染が366件で昨年より21件増加。同性間性的接触による感染が281件で昨年より27件増加、異性間は99件で1件増とほぼ横ばいです。年齢別では、HIV感染者は20歳代・30歳代が多く、AIDS患者報告数は30歳代と50歳代が多い。都内の保健所の検査件数は10,987件で昨年の9,742件を1,000件以上上回っています。

詳細は <http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kansen/news/presskansen060323.html> および、エイズニューズレター3月増刊号 <http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/AIDS/news/AIDS110-2.pdf> をご覧ください。

今年度も感染症発生動向調査(サーベイランス)にご理解ご協力をお願い申し上げます。

(文責：西多摩保健所保健対策課)

専門医に学ぶ 第16回

問題

【症 例】 5歳5ヶ月 女児

【主 訴】 発熱、右頸部痛

【家族歴】 特記すべきことなし

【既往歴】 4歳7ヶ月時、川崎病疑診。5歳より気管支喘息。5歳2ヶ月時 ムンプス。

【現病歴】 平成18年1月15日 発熱 38°C、右の耳の下が痛い。

16日 38.7°C、夕方 外来受診。咳、鼻水なし。右頸部リンパ節腫脹あり（径3cm、境界不明瞭、発赤なし、熱感なし）斜頸。咽頭発赤なし、他に異常所見なし。（?）を疑うが経過観察、フォローとする。

17日 熱が続き、食欲なく、嘔吐もあり再来。検査、治療のため入院。

【現 症】 39°C、元気なし。右頸部リンパ節腫脹変わらず。他のリンパ節腫脹なし。肝脾腫なし。咽頭発赤軽度。皮疹なし、他に異常所見なし。

【検査所見】

WBC 16560 (St 4.7, Seg 87.3, Lymph 6.0, Mono 2.0), RBC 460万, Hb 13.3, Ht 38.3, Plt 30.1万

CRP 13.67, ESR 30min-27, 60min-67, 120min-105

T-Prot 7.3, Alb 4.3, GOT 1996, GPT 786, LDH 1675, ALP 832, T.Bil 2.2, CPK 67, AMY 67, BUN 11.5, UA 3.3, CRE 0.33, Na 134, K 4.2, Cl 100, Ca 9.8, T-Chol 161

検尿 sg 1.037, pH 7.0, Prot (2+), Glu(-), Ket (3+) Urob(3+), Bil(-), OB(-)

Sed RBC 5~9/F, WBC 10~19/F

問題1：どのような病態、病気が考えられますか？

問題2：更にどのような検査をすべきですか？

問題3：とりあえずどんな治療をしますか？

問題4：予測されるその後の経過と最終診断は？

解答と解説

青梅市立総合病院 小児科部長 林 良 樹



問題1：症状、理学的所見は、発熱と片側性、孤立性の頸部リンパ節腫脹（熱感、発赤なし）、食思不振、嘔吐。

検査所見では、①、好中球優位の白血球増多、CRP 高値、血沈の亢進あり、細菌感染が疑われる。②、GOT, GPT, LDH, ALP, Bil の著しい上昇(GOT>GPT)あり、肝・胆道系の炎症が考えられる。AMY の上昇はない。③、尿では、ケトン体 (3+) があるが、Prot (2+)、沈査 WBC10~19/F も見られる。

考えられる病態、疾患は、1) 化膿性リンパ節炎、2) 肝炎（ウイルス性肝炎、EBウイルス感染など）、3) 胆嚢炎、胆管炎、4) 先天性胆管拡張症、5) アセトン血性嘔吐症、6) 尿路感染症、7) 悪性リンパ腫などがあげられよう。ただ、どの疾患でもすべての異常を一元的に説明できない。一元的に説明できそうな疾患がありますか？現時点では診断できないですね。

問題2：更なる検査としては、1) 各種細菌培養（咽頭、尿、血液）、2) Bil 分面、LDH アイソザイム、肝炎ウイルス（A, B, C）、EB ウイルス抗体価、3) 頸部リンパ節、腹部のエコー検査、4) 腫瘍マーカー（フェリチン、sIL2 リセプターなど）。

問題3：高熱が続き、嘔吐もあるため、とりあえずアセトン血性嘔吐症の病態に対して、点滴をおこない、化膿性リンパ節炎を視野に抗生剤（AB-PC/SBT）静注をおこないながら経過をみることにした。

問題4：その後の経過は？最終診断は？

1月18日 39.6°C、皮膚に発疹出現、手指も発赤、咽頭発赤も認められるように。

19日 40.0°C、皮膚の発疹広がり、眼球充血、口唇も赤くなり莓舌も出現。

発熱第5病日にやっと症状が出揃って「川崎病」の診断に至った。

これで症状、検査の異常所見すべて川崎病によるものと判明した。

更なる検査結果としては、A、B、C型肝炎ウイルス（-）。

EB ウイルス抗体すべて（-）。血液、尿培養（-）。咽頭培養も特記すべきものなし。抗生剤投与中止、アスピリン内服開始。

ガンマグロブリン超大量療法（2g/kg）点滴静注開始。

20日 解熱（37°C台）

21日 WBC 6100, CRP 10.28, GOT 32, GPT 142, LDH 177, Bil 0.5

22日 川崎病症状ほぼ消褪。

25日 手指模様落屑。

27日 軽快退院。この間の、心エコーで冠動脈拡張や瘤は認めていない。

* 川崎病というのは川崎病診断基準を満たしてはじめて診断できる。この症例のように発熱、頸部リンパ節腫脹で発症する場合も少なくない。この独特のリンパ節腫脹（孤立性だがエコーで見ると実は数個のリンパ節が集簇したもの）は予測診断の鍵となる。

川崎病は1967年に、川崎富作先生が「指趾の特異的落屑を伴う小児の急性熱性皮膚粘膜リンパ腺症候群」として初めて発表された症候群で、その後広く認められるようになり、日本ばかりではなく世界にも良く見られる疾患 - Kawasaki Disease - として知られるようになっていく。この疾患は過去をさかのぼってみても1950年以前には見当たらない、しかも日本発の新しい病気で、その病因・病態を考える上でも非常に興味深い。日本では毎年6000~8000人が発症している。病因は未だ不明だが、なんらかの感染が原因となっており、サイトカイン、ケモカインの亢進、

リンパ球、マクロファージ、好中球の活性化などの免疫過剰反応がおり、全身の血管炎を引き起こすと考えられる。そして、主に中型の動脈である冠動脈に病変を起こす。臨床的に興味ある点は、5歳未満の小児に好発すること、他の疾患では見られない眼球結膜充血、BCG 接種部位の発赤腫脹などの変化、四肢末端の発赤・硬性浮腫、爪と皮膚の移行部からの模様落屑、独特の頸部リンパ節腫脹などである。実に不思議な病気である。ガンマグロブリンの大量投与によって直ちに解熱、諸症状の改善がみられるのも面白い。また、以前は自然経過をずいぶんみてきたがほとんどは自然に治る急性疾患であることも確かである。以上、小児科の代表的な病気を紹介しました。病因、病態の解明を是非日本の小児科医の手でと願っています。

川崎病診断基準

本症は、主として4歳以下の乳幼児に好発する原因不明の疾患で、その症状は以下の主要症状と参考条項とに分けられる。

A 主要症状

1. 5日以上続く発熱（ただし、治療により5日未満で解熱した場合も含む）
2. 両側眼球結膜の充血
3. 口唇、口腔所見：口唇の紅潮、いちご舌、口腔咽頭粘膜のびまん性発赤
4. 不定形発疹
5. 四肢末端の変化：（急性期）手足の硬性浮腫、掌蹠ないしは指趾先端の紅斑
（回復期）指先からの模様落屑
6. 急性期における非化膿性頸部リンパ節腫脹

6つの主要症状のうち5つ以上の症状を伴うものを本症とする。

ただし、上記6主要症状のうち、4つの症状しか認められなくても、経過中に断層心エコー法もしくは、心血管造影法で、冠動脈瘤（いわゆる拡大を含む）が確認され、他の疾患が除外されれば本症とする。

B 参考条項

以下の症候および所見は、本症の臨床上、留意すべきものである。

1. 心血管：聴診所見（心雑音、奔馬調律、微弱心音）、心電図の変化（PR・QTの延長、異常Q波、低電位差、ST-Tの変化、不整脈）、胸部X線所見（心陰影拡大）、断層心エコー図所見（心膜液貯留、冠動脈瘤）、狭心症状、末梢動脈瘤（腋窩など）
2. 消化器：下痢、嘔吐、腹痛、胆嚢腫大、麻痺性イレウス、軽度の黄疸、血清トランスアミナーゼ値上昇
3. 血液：核左方移動を伴う白血球増多、血小板増多、赤沈値の促進、CRP陽性、低アルブミン血症、 α_2 グロブリンの増加、軽度の貧血
4. 尿：蛋白尿、沈査の白血球増多
5. 皮膚：BCG接種部位の発赤・痂皮形成、小膿疱、爪の横溝
6. 呼吸器：咳嗽、鼻汁、肺野の異常陰影
7. 関節：疼痛、腫脹
8. 神経：髄液の単核球増多、痙攣、意識障害、顔面神経麻痺、四肢麻痺

- 備考
1. 主要症状Aの5は、回復期所見が重要視される。
 2. 急性期における非化膿性頸部リンパ節腫脹は他の主要症状に比べて発現頻度が低い（約65%）。
 3. 本症の性比は、1.3～1.5：1で男児に多く、年齢分布は4歳以下が80～85%を占め、致死率は0.1%前後である。
 4. 再発例は2～3%に、同胞例は1～2%にみられる。
 5. 主要症状を満たさなくても、他の疾患が否定され、本症が疑われる容疑例が約10%存在する。この中には冠動脈瘤（いわゆる拡大を含む）が確認される例がある。

答 申

平成18年3月14日
会館建設検討委員会

西多摩医師会 会館建設検討委員会

委員長：小林杏一

委員：大堀洋一、横田卓史、込田茂夫、田坂哲哉、田村啓彦、星野 誠、葉山 隆、馬場眞澄、丸野仁久

【はじめに】

真鍋医師会長より「西多摩医師会活性化の為、将来像を考慮し、医師会のシンボルである医師会館をいかにすれば建て替えられるか、時期、場所、会館の内容について検討を願います」との諮問を受けて、平成17年6月より約半年の間、計5回の会合を開き、各地区より選出された10名の委員で討議を行った。

今回委員会が設置された経緯には、

- 1) 明治45年西多摩医師会発足後、昭和33年に青梅西分町に土地を取得し、会員の寄付金により同年、会館が建設され、その後数回の増改築を経て、現在に至り、建物の老朽化が進んでいる事。
- 2) 長期行っている会館整備積立金(1億1260万円)使途計画を新会館建設事業計画で明らかにしておく時期に来ている事。
- 3) 現会館は交通の便が悪く、講演会や地区会等の会館使用が敬遠されているのではないかと意見がある事。

と言った背景があった為である。

又、会館建設に際しては、各会員に新規負担を求めないとする事を前提に検討を行った。

【検討内容】

まず、会館の老朽化と積立金の使途計画を明らかにしておく必要性から委員全員、建て替えに異議はなかった。

次に設置場所の検討を行ったが、移転を仮定した場合、会員数の増加に伴う各地区での会員密度と地理的条件を考えると、羽村か小作辺りが適当との意見が多かった。

移転して建設する場合、現在の資金・資産の把握が必要との事で、現在使用している土地の実勢価格調査と条件を満たす取得可能な移転候補地調査を行った。

その結果、所有地317坪の売買価格は、1億から1億2570万と試算された。それに基づいて調査した移転候補地は、どれも広さが現在地の1/2か

1/3程度となり、十分な駐車スペースが確保する事が困難なため、適当ではないとの結論に至った。

次に借地での建替えについて検討を行った。

今回検討を行った候補地は340坪で、小作駅敷分と交通の便がよく、駐車スペースも十分で条件を満たすものであった。この賃貸料は年612万で、医師会の年間収支差額に起因する余剰金発生額、整備積立金中止による支払財源、現在地の固定資産税分、現会館の修繕費等の合計で支払い可能ではないかとの意見もあったが、現在の会員の保険収入スライド制での会費収入で今後、長期賄っていく事は会費収入の減少も考えられる為、不確実であり借地での建て替えも難しいのではないかと、との見解に至った。

また、新会館の内容検討を行ったが、整備積立金内で、約100名収容可能な講堂(165㎡)・事務室(29㎡)・会議室(34㎡と37㎡)等を備える鉄筋2階建て(総床面積430㎡=130坪・坪単価90万)程度の会館は建設可能であると確認した。

【まとめ】

新会館の建設は、現在の資金では移転して建替える事はなかなか難しいのではないかと意見が多かった。よって、今のところ、建設場所としては現在地での建替えが妥当であると思われるが、更なる検討が必要と考える。

建設時期については、医師会創立100周年を迎える平成25年までには新会館が建設される事が望ましいという一同の意見であった。

今後、事前に総会で建替えの承認を得ておいた上で準備委員会を設置し、継続した検討を行っていくことが重要であるとする。

もし移転する場合は、土地取得が先決で、条件に見合った物件が出た場合、即対応できるようにしておくことが必要と考える。

また、会館の内容については将来の医師会活動を熟慮し、使用目的にあった内容にするよう更に検討を重ねていく必要があるという結論に至った。

伝言板

① 第40回 青梅糖尿病内分泌研究会

日時：平成18年4月12日(水) 19:30～21:00

場所：青梅市立総合病院 南棟3F 講堂

内容：①糖尿病治療薬の最近の話題

②特別講演

座長 青梅市立総合病院 院長 原 義人 先生

『医療連携からみた糖尿病診療』

伊藤クリニック 院長 伊藤 眞一 先生

青梅地区以外の先生方のご出席も歓迎致します

② 第14回 西多摩心臓病研究会

日時：平成18年4月19日(水) 19:30～

場所：青梅市立総合病院 南棟3F 講堂

内容：①特別講演

「最新のオフポンプバイパス術」

一人工心臓を用いない心拍動下冠動脈バイパス術の技術革新一

東京医科歯科大学 心臓・肺外科 講師 荒井 裕国 先生

②症例検討 2例～3例を予定

③ 青梅市民公開講座「気になるおしっこの話」

日時：平成18年4月22日(土) 14:00～16:00

場所：青梅市民会館大ホール

講演 ①「前立腺肥大症による排尿障害」

東京都立府中病院 泌尿器科 医長 長瀬 泰 先生

②「前立腺肥大症以外のおしっこの話」

青梅市立総合病院 泌尿器科 部長 友石 純三 先生

③「Q & A 質問コーナー」

申し込みはがきの質問に対し、お答えします。

ご参加をよろしくお願いいたします

④ 第3回 青梅呼吸器勉強会

日時：平成18年5月16日(火) 19:30～21:00

場所：青梅市立総合病院 南棟3F 講堂

内容：◎画像診断（青梅市立総合病院より）

◎診断相談コーナー

お困りの症例等お持ち下さい。（胸部X線写真、胸部CT写真）

青梅地区以外の先生方のご出席も歓迎致します

同好会短信

ゴルフ部だより

田村皮フ科 田村啓彦



去る3月12日、立川国際カントリー倶楽部 草花コースに於いて、恒例の医師会コンペが隠しホールスコアでハンディキャップを決定する新ペリア方式ストロークプレーにて行われました。

当日は4月を思わせる温暖な陽気ではありませんでしたが、強い南風が吹き荒れ、グリーン上には風に飛ばされた松葉が散乱し、雨を想定していたのか斜面にピンが切つてあったため、3パット続出の難コンディションでした。結果は別表の如く、前回のコンペではパープレーの酒井会員の前に苦汁をなめ、雪辱に燃

える江本会員が、このコンディションで1人70台の好スコアを叩き出してのベストグロ優勝で見事本懐をとげました。ネット0.2差で惜しくも優勝を逃がしたのは、これまで下位に甘んじていた中田会員で、最終の9番ロングホールではなんと第2打を5番アイアンでグリーンオンさせ、イーグル逃しのバーディーと豪打で一気にブレイクしての準優勝でした。

今回は6月18日(日)立川国際カントリー倶楽部 奥多摩コースにて開催を予定しております。コースレイアウト変更前の最後のプレーになります。奮って御参加下さい。



順位	氏名	アウト	イン	グロス	ハンディ	ネット	
優勝	江本 浩	39	38	77	4.8	72.2	ドラコン賞×2、ベストグロ賞
準優勝	中田 芳孝	47	53	100	27.6	72.4	
3位	宮川 栄次	47	45	92	18.0	74.0	
4位	田辺 秀郎	56	49	105	30.0	75.0	ニアピン賞
5位	田村 啓彦	48	44	92	16.8	75.2	
6位	横地喜代美	54	54	108	32.4	75.6	
7位	渥美 浩	45	50	95	19.2	75.8	
8位	大島 永久	41	47	88	12.0	76.0	
9位	酒井 淳	41	40	81	4.8	76.2	
10位	森本 晋	60	49	109	32.4	76.6	
11位	青山 彰	45	44	89	12.0	77.0	ドラコン賞、ニアピン賞
11位	諸角 強英	47	42	89	12.0	77.0	
13位	松原 貞一	47	51	98	20.4	77.6	
14位	堤 次雄	50	60	110	32.4	77.6	ニアピン賞×2
15位	野村 中夫	47	49	96	18.0	78.0	
16位	横田 卓史	50	47	97	18.0	79.0	
17位	西村 律子	53	49	102	21.6	80.4	ブービー賞
18位	河内 泰彦	49	47	96	12.0	84.0	ドラコン賞

各部だより



学術部 Information



《公立阿伎留病院医局講演会》



平成18年2月13日（月）

『あきる野市民の健康状態、危機的状況 — 平成17年度市民健診結果から』

あきる野市医師会会長 小机敏昭先生

於：公立阿伎留病院講堂

座長：院長 岡田清己先生

あきる野市の市民健診は、6月～7月に秋川地区・五日市地区の2ヶ所の会場で集団健診の形で検査を実施、受診者が選択した医療機関で診察を受け、検査結果の説明を受ける方法で行われている。

平成17年度の受診者は総数9167名で、うちわけは男性2893名（16～39歳 316, 40～64歳1011, 65歳以上1740）、女性6274名（16～39歳1020, 40～64歳3514, 65歳以上1740）であった。検査結果は数字とともに「異常なし」「要指導」「要治療」で示されるが、その判定は各担当医が行っている。今回の検討では、「要指導」「要治療」を危険因子とした。

結果：（1）高脂血症：男性56%、女性57.3%。男性では年齢差はそれほどみられず、全年齢層を通して高く、女性では40歳以上の年齢層で60%を超える、という異常事態がみられた。（2）糖尿病：男性44.9%、女性44.3%。男女差はみられず、男女とも加齢とともに増加、特に40歳以上の女性は65.5%という結果であった。（3）高血圧：男性38.8%、女性21.5%。女性より男性で多くみられ、加齢とともに増加し、65歳以上の男性46.8%、女性37.7%であった。（4）肥満：男性32.7%、女性21.4%。男性では若年層で多く、加齢とともに減っていた。女性では逆に加齢とともに増えているが、男性よりは少ない状況であった。（5）貧血：男性21.6%、女性16.2%。男性では65歳以上で28.4%と女性より多く、女性では16～39歳が22%と若年層で多かった。（6）肝障害：男性23.9%、女性6.6%。圧倒的に男性に多く、特に64歳以下の男性では29%にみられた。（7）心電図異常：男性18.1%、女性10.3%。加齢とともに増加し、65歳以上で男女とも24.9%、18.1%）多くなっていた。（8）高尿酸血症：男性13.1%、女性13.7%。65歳以上の女性が19.8%で最も多かった。（9）その他：蛋白尿・血尿・腎機能障害は、男女とも1%以下であった。（10）PSA（前立腺がん検診）：今年度から50歳以上の男性を対象に、希望者に対し実施した。受診者は667名、4.0～9.9が61名（9.1%）、10.0

以上が9名(1.3%)で、65歳以上が54名であった。該当者には精密検査を受診するよう勧めた。

考案：あきる野市民の健康状態は危機的状態である。危険因子として順位をつけると、第一位高脂血症、第二位糖尿病、第三位高血圧症、第四位肥満で、男女とも同じ順位であった。高脂血症・糖尿病に関しては、半数の市民がリスクを抱えている状態で、メタボリック・シンドロームの該当者がかなり含まれていると考えられる。介護認定審査会でみていると、要介護度が高いケースでは脳梗塞後遺症としてのADLの低下・認知症を多くみかける。脳梗塞の危険因子である「あきる野市民の4大リスクファクター」は、将来を非常に心配させられる。早急に対策が必要である。

最も重要なことは、いずれの病態も原因が生活習慣上の問題で、特に食習慣の改善が最大の対策、という事である。地域の特性として、煮物の味付けが濃かったり、野菜をよく天麩羅にしたり、コロケ・ラーメン・唐揚げ・野菜炒めなどを好んだり、あんこの茶菓子をよく食べたり、などが挙げられ、気が付く事を述べるときがない。最も困ったことは病識がないことである。これに対しては地域での地道な啓蒙が必要で、各医療機関の役割は大きい。公立阿伎留病院に健康教室・予防教室・教育入院等をお願いすることも必要であろう。最終的には、危険因子に対する早期治療、すなわち医療依存度を高めることも考えて行かねばならない。

おわりに：本日は多数の市議会議員の皆様にご出席いただいた。市民の現在の健康状態、危機的状況をよく理解していただけたと思う。今後、健康づくりの重要性を充分認識していただき、是非、市政に反映していただきたい。行政・医療機関・健康づくり関係者などが中心となり、地域全体に現状を理解してもらい、市民の意識改革を実践することが緊急課題である。

● 理事会報告 ●

★ Information ●

2月定例理事会

平成18年2月28日(火)

西多摩医師会館

[出席者：真鍋・小机・横田・新井・神尾・酒井・田坂・中野・野本・原・細谷・松原・足立]

【1】報告事項

1. 都医地区医師会長協議会報告

(1) 都医からの伝達事項

- ① 在宅難病患者訪問診療事業の実施報告(平成17年度第3四半期)について
西多摩は1名。
- ② ホームページ新コンテンツ「地区医師会からのお知らせ」について
- ③ 基本健康診査時における運動機能測定の実施について

- ④ 徳洲会病院に関する情報提供について
- (2) 協議事項
なし。
- (3) 地区医師会からの報告
1. 中央ブロック（当番：下谷医師会）
 2. 城東ブロック（当番：江戸川区医師会）
 3. 城西ブロック（当番：目黒区医師会）
 4. 城南ブロック（当番：荏原医師会）
 - ① 「2006年度診療報酬改定に対する戦略講演会」及び「城南五医師会 会員・家族・従業員懇親会」開催について（荏原医師会）
 5. 城北ブロック（当番：北区医師会）
 6. 多摩ブロック（当番：東久留米医師会）
 7. 大学ブロック（当番：東大医師会）
- (4) その他
なし。
2. 都医地区広報担当理事連絡会報告（2/20開催）
東京都医師会ホームページに「地区医師会からのお知らせ」等の新設（直接発信、書込みが可能になった）など。
3. 都医地区医師会医事紛争担当理事連絡会報告（2/27開催）
日医医賠償責任保険の主な留意事項など
4. 各部報告（各担当理事）
- 産業医：平成17年度第二回地域産業保健センター運営協議会
長時間労働者に対する面接指導体制の整備
石綿障害労災補償など（2/21開催）
4/1 労働安全衛生法改定
- 学術部：3/22 第4回西多摩臨床報告会の演題
3/24 認知症シンポジウム
5. 地区会よりの報告（各地区理事）
- 青 梅：2/27 総会。奥多摩地区会の分離、役員改選など。
福 生：なし。
羽 村：3/10 総会。役員改選。
あきる野2/20 総会。役員改選。

瑞穂：2/28 行政と来年度の打合せ。役員留任。
日の出：2/25 地区会。役員改選。

6. その他

- 東京労働保険医療協会評議員懇談会報告（2/23）
労災、自賠責について。
- 都医代議員会報告
代議員、予備代議員が円満に選出された。
- 三師会講演会報告（2/18）
- 青梅マラソン表彰報告
第40回記念大会で西多摩医師会、青梅市医師会が表彰された。
- 西多摩保健所会議報告（2/6システム化部会、2/27地域医療協議会）

【2】報告承認事項

1. 入会会員について ―― 承認 ――
A会員：稲見敏之（けんちの苑みずほ・瑞穂）
橋本圓了（坂本第二病院・青梅）
B会員：青梅市立総合病院1名 青梅坂本病院1名
2. 平成18年度都立あきる野学園養護学校学校医の推薦について（敬称略） ―― 承認 ――
松本 学（まつもと耳鼻咽喉科）
3. 平成18年度瑞穂町立保育園園医の推薦について（敬称略） ―― 承認 ――
高水 松夫（高水医院）

【3】協議事項

1. 平成18年度事業計画（案）の承認について（持回り承認印） ―― 承認 ――
2. 平成18年度収支予算書（案）の承認について ―― 承認 ――
3. 平成17年度第二回定時総会議題追加などについて ―― 承認 ――
 - 第5号議案 西多摩医師会互助会役員の選任
 - 総会開会前の講演会
演題：「平成18年度診療報酬改定と急性期病院経営」について
講師：青梅市立総合病院長 原 義人先生
4. その他
 - 介護予防基本チェック対価などの件について（継続）（会長）

- 都民医療学習セミナーの講師派遣について
平成18年3月15日 青梅市立総合病院
「西多摩地域脳卒中医療連携の概要」 講師：小机副会長
- 診療報酬点数改正講習会の開催について（田坂理事）講師など
3月23日（木）（秋川ふれあいセンター）PM7時30分～
- 18年度会員名簿作成について
 - 1) 広告掲載協力について
 - 2) 会員の診療科目について（従来のまま 或いは 日医の分類による科目に依頼する）
従来のみとする。
- 什器備品の廃棄処分・新規購入の承認 —— 承認 ——

3月定例理事会

平成18年3月14日（火）

西多摩医師会館

〔出席者：真鍋・小机・横田・新井・伊藤・酒井・瀬戸岡・田坂・中野・野本・原・細谷・松原・足立〕

【1】報告事項

1. 会館建設検討委員会答申について（本号14ページ）

2. 各部報告（各担当理事）

総務部：3/16 新旧理事・医道審議会（各役職の長及び副の選出）

3/28 第4回西多摩地域脳卒中医療連携検討会開催

3/29 第2回定時総会

4/26 経理部会

4/28 会計監査会

学術部：3/22 第4回西多摩臨床報告会

3/24 学術講演会

病院部：3/10 介護フォーラム報告（137名参加）

3/16 病院部セミナー（青梅市立総合病院）ヒューマンエラーについて

保険部：3/23 診療報酬点数改定講習会（秋川ふれあいホール）

学校医：学校医による健康教育に関するアンケート調査について（8市町村教育委員会学校保健担当者に実施中）

3. 地区会よりの報告（各地区理事）

青 梅：なし。

福 生：3名の理事を選出。

羽 村：3/10 総会 理事を選出。

あきる野：3/20 例会。

瑞 穂：なし。

日の出：欠席。

4. その他

- 医療と医政の懇談会開催について（衆議院議員 井上信治氏を囲む意見交換会）
3月27日（月）西多摩医師会館 講堂 PM7時30分～

【2】報告承認事項

1. 入会会員について（敬称略） —— 承認 ——
B会員：青梅市立総合病院1名 大聖病院1名
2. 平成18年度東京都立青梅総合高等学校産業医の推薦について（敬称略） —— 承認 ——
農林高等学校 丹生 徹
青梅総合高等学校 丹生 徹
任期：平成18年4月1日～平成19年3月31日
3. 平成18年度東京都（知事部局）福祉保健局・青梅看護専門学校産業医の推薦について（敬称略） —— 承認 ——
福祉保健局・青梅看護専門学校 細谷内科医院 細谷純一郎
任期：平成18年4月1日～平成19年3月31日
4. 平成18年度羽村市立保育園園医の推薦について（敬称略） —— 承認 ——
《保育園名》 《医師名》 《保育園名》 《医師名》
東保育園 塩沢 三朗 しらうめ保育園 柳田 和広
西保育園 関谷進一郎 さくら保育園 山川 淳二
5. 平成18年度西多摩地区市町村結核対策委員会委員の推薦について（継続審議）
6. 平成18年度東京都日の出福祉園産業医の推薦について（敬称略） —— 承認 ——
大聖病院 宮川 栄次
任期：平成18年4月1日～平成19年3月31日
7. 平成18年度瑞穂町立小中学校医・眼科医の推薦について（敬称略） —— 承認 ——
学校医 《学校名》 《医師名》
瑞穂第一小学校 小林 康光
瑞穂第二小学校 丸野 仁久
瑞穂第三小学校 栗原 教光
瑞穂第四小学校 高水 松夫
瑞穂第五小学校 高水 松夫
瑞穂中学校 新井 敏彦
瑞穂第二中学校 波田野洋夫

眼科医 瑞穂町立小・中学校7校 奥野 幸雄

【3】協議事項

1. 各地区理事・監事・医道審議会委員の届出について
2. 本会互助会役員について（3/16開催の新旧理事会議 役職の選出後の案）
会長1名、副会長2名、理事若干名、監事2名。
3. 平成18・19年度（18・5～20・4まで）保険指導整備委員会委員の選出について
（各地区の定数を選出して下さい）
4. 平成18年度より実施の基本健康診査について
5. その他
 - 平成17年度第2回定時総会次第などについて
総会・講演会 1Fテアトロソシエ 懇親会 9F眺林
 - 平成18年度第1回定時総会日程について
18年5月26日（金）フォレストイン昭和館（予定）

会員通知

- 会報
- 宿日直表（青梅・福生・阿伎留）
- 市民参加型介護フォーラム案内（3/10）
- 診療報酬点数改定講習会（3/23）
- 西多摩医師会臨床報告会（3/22）
- 学術講演会（3/24）
- 病院部セミナー（3/16）
- 青梅市立総合病院だより
- 主治医意見書マニュアル
- 東京都の国民健康保険組合の「被保険者証更新」について
- 平成18年度大田区、世田谷区及び北区子ども医療費助成制度実施にかかるポスターの掲示について
- 医療と医政の懇談会開催について（3/27）

医 師 会 の 動 き

医療機関数	209	病院	29	16日	新旧理事会・医道審議会
		医院・診療所	180	17日	会報編集委員会
会 員 数	470	A会員	202	28日	定例理事会
		B会員	268	29日	平成17年度第2回定時総会

会議

- 3月3日 会館建設検討委員会
- 14日 定例理事会

講演会・その他

- 3月8日 保険整備会
- 8日 法律相談

お知らせ

事務局より **お知らせ**

平成18年5月(4月診療分)の

保険請求書類提出

5月8日(月)

— 正午迄です —

法律相談

西多摩医師会顧問弁護士 鈴木禧八先生による法律相談を毎月第2水曜日午後2時より実施しておりますのでお気軽にご相談ください。

- ◎相談日 4月は12日(水)
5月は10日(水)の予定です。
 - ◎場所 西多摩医師会館和室
 - ◎内容 医療・土地・金銭貸借・親族・相続問題等民事・刑事に関するどのようなものでも結構です。
 - ◎相談料 無料(但し相談を超える場合は別途)
 - ◎申込方法 事前に医師会事務局迄お申込み願います。
- (注) 先生の都合で相談日を変更することもあります。

社団法人 **西多摩医師会**

平成18年4月1日発行

会長 真鍋 勉 〒198-0044 東京都青梅市西分町3-103 TEL 0428(23)2171・FAX 0428(24)1615

会報編集委員会 野本 正嗣

瀬戸岡俊一郎 石井 好明 桂川 敬太 込田 茂夫 坂井 成彦
鈴木 道彦 馬場 眞澄 葉山 隆 細谷純一郎

印刷所 マスダ印刷 TEL 0428(22)3047・FAX 0428(22)9993

レセコンから今、多機能電子カルテ時代へ。



「Medical Station」は診療・検査から会計まで、医療現場をまるごとサポート。医療スタッフの煩雑な作業を軽減するだけでなく、インフォームドコンセントや待ち時間の短縮など質の高いサービスを実現。

検査結果は暗号化したインターネット・メールで、依頼日の翌朝にはシステムに自動的に取り込まれます。検査センターならではの充実した検査機能のほかに、レセコン機能による診療費計算の自動化、さらには経営分析にも手軽に活用でき、医療の現場をトータルにサポートします。



画期的な新技術により「非改ざん証明」を初めて実現しました

(株)NTTデータとの提携により、厚生省の医療情報電子化3基準のうち最も実現が難しかった「真正性の確保」を日本で初めて技術的に可能にしました。過去のカルテ情報に不正な改変のないことをNTTデータのSecureSeal™センタ(電子文書証明センタ)が厳密に第三者的に証明します。

ハイパフォーマンス電子カルテシステム

Medical Station

お問い合わせ・資料請求先
株式会社ビー・エム・エル
医療情報システム部
〒151-0051 渋谷区千駄ヶ谷5-21-3
TEL: 03-3350-0392
e-mail: ms-sales@bml.co.jp
http://www.bml.co.jp/

開発元
株式会社メリッツ
戦略システム開発部
〒350-1101 川越市市場1361-1
TEL: 049-233-7074



価値創造合併 多摩に「たましん」 新生誕生。

〈たましん〉〈たいへい〉〈はちしん〉は平成18年1月10日合併し、「多摩信用金庫」としてスタートしました。これからも、「お客さまの幸せづくり」を使命に地域とともに歩んでまいります。

(新社章コンセプト) たましんのダイナミックに広がりゆく姿を頭文字「T」に象徴しています。力強く上昇するカーブは、未来への確実な成長と発展・信頼性を表現しており、地域をつまみこむやさしさと、柔軟かつ躍動的な印象を併せ持ったデザインです。たましんの親近感と熱意を象徴するレッド、多摩の自然を象徴するブルーとグリーンを使用します。

多摩信用金庫
http://www.tamashin.jp